



## 経腸栄養剤とくすりの相互作用

経腸栄養剤と医薬品にも相性の悪い組み合わせがあります。今回はその中で、ハイネーゲルと胃薬の相互作用について紹介します。

ハイネーゲルは消化態栄養剤であり、機能が低下した腸管でも、吸収が比較的容易とされる製剤です。



注入時は液体ですが、胃の中で胃酸によりPHが低下すると、ゲル化が起こり粘度が増すため、逆流による嘔吐や下痢の発生予防に有効とされています。

胃潰瘍や逆流性食道炎に処方される胃薬(PPIやH<sub>2</sub>受容体拮抗薬)は、胃酸の分泌を抑える作用があります。

当院採用薬では・・・

ランソプラゾール

ネキシウム

タケキャブ

ファモチジン

シメチジン

ラニチジン

など



この二つが合わさってしまうと、ハイネーゲルのゲル化が十分に起こらず、期待した効果が得られない場合があります。

薬剤による胃酸の分泌抑制効果は持続的であるため、注入の時間をずらしても解決策にはならず、薬剤の変更やその他の工夫が必要となります。

ハイネーゲルの使用を検討される場合は、処方されている胃薬にも一度目を向けてみてください。